



友人学園の皆さんと

## 大学での授業

私が今受けている授業は、言語学、環境学、そしてライティングの授業です。言語学の授業では、言葉の音や形、意味や表現方法について学んでいますこのセメスターは勉強のペースをつかむために易しいクラスを選択しましたが、次のセメスターからは400番台の上級生向けの授業もチャレンジしていきたいと思っています。

環境学の授業は、オレゴン州にあるダム移転の問題や地球温暖化の問題まで、幅広い内容を取り扱っています。特に世界における人口増加の問題に関しては、発展途上国の著しい人口増加とそれに伴うHIVの問題に話が及んだため、タンザニアで開発途上国の現状を見てきた私にとって、議論しやすい話題でした。みんな私の体験と意見を真剣に聞いてくれて、いいフィードバックをしてくれたので、ディスカッションに参加していく自信ができました。

ライティングの授業は、早稲田大学で松本先生が講義してくださったこととほとんど重複しています。むしろ、松本先生の授業のほうがレベルは高かったので、5パラグラフエッセイ(SPE)を練習していくいい機会となっています。

## 5PEの大切さ

実際に留学先での授業を体験してきて、松本先生に教えられてきたSPEエッセイの書き方、その考え方がいかに重要であるかを身にしみ感じています。どの授業で求められるペーパーも、科目によって多少のずれがあるにせよ、基本的な流れは変わりません。

ディスカッションの授業では、アメリカの大学生は積極的に意見を述べ、参加してきます。私の友達の何人かはそこで挫折して授業をドロップしていましたが、私はなんとか食らいついて、毎授業で発言するように心がけています。ディスカッションしていくアイデアも、SPEの考え方を実践しています。議題に対して自分の意見を言うことは、実はさほど難しいことはありません。ただ、自分の好き嫌いで判断した意見では、誰も納得してくれないのです。アメリカ人の学生でも、たまに自分の意見を言わばなしたままで終わらせてしまう人をみかけます。相手を説得するために自分の意見をサポートする根拠。それがあって初めて自分の主張が認められ、またより強いものになっていくのだと、SPEから学ぶことができました。

もう一つ、私がディスカッションの授業で意識していることがあります。議論が白熱してくると英語が聞き取れなくなったり話題が飛んだりしてしまうことがあります。そこで、私はいつも一番初めに会話を切り出します。そうすると、自分が知っている話題に議論を持ち込んでいくことができるからです。

## 就職活動とこれからの意気込み

11月9日から11日に、アメリカ最大規模の就職セミナーであるボストンキャリアフォーラムが開かれます。私は今、そのフォーラムに参加するため履歴書作成や企業研究を始めだしたところです。私はこれまで自分がどのような職業に就くのか明確な答えを出すことができませんでした。正直なところ、今でもまだ迷っています。このフォーラムに参加しようと思ったのは、そんな迷いの中から何かインスパイアされるものを見つけて、将来の自分のビジョンをはっきりと作っていかうと決心したからです。

将来のビジョンは、私が達成しなければならない目標ともなります。現在の自分とならなければならない自分。そこには必ずギャップがあるはず。ボストンでは、そのギャップを自分で理解することによって、次に何をしていかなければならないかがわかってくるのだと思います。残された留学生生活は、そのギャップを埋めることに必死にもがいていくことになるでしょう。次回には、自分の大きな夢が、皆様にお伝えできますように。

(10月13日)



ホームステイ先の家族と(早稲田のクラスメート末松君も一緒に)

## 清沢 健二 (きよさわ けんじ)

早稲田大学教育学部3年  
9月から1年間、オレゴン州 Oregon University に留学中。



タンザニアでのボランティア活動と、オレゴンでの留学生活始まりの、清沢くんからの報告です。

以前の自己紹介にもありましたが、清沢君はバイリンガル教育を専門的に学んでいます。早速、留学先にある、日本語イマージョン教育を行っている友人学園でボランティア活動です。もう、自分の研究に役立つ情報を入手しているようです。

活動的な清沢君。勉強がおろそかにならないかと、少し心配していました。しかし、クラスで学んだスキルを生かして、留学先での勉強も積極的にスタートした報告を見て、私はひと安心しました。

清沢君、寒さに気をつけて！ 次号の報告を楽しみにしています。